

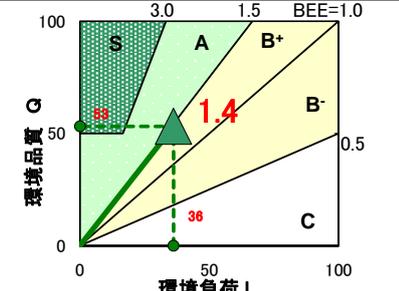
# CASBEE® 広島

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 広島 2016年版

(使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0))

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	(仮称)広島市西区大芝マンション分	階数	地上13F	 <p>ください</p>	
建設地	広島県広島市西区大芝1丁目5番4	構造	RC造		
用途地域	第二種住居地域、準防火地域	平均居住人員	132 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)		
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2025年9月 予定	評価の実施日	2025年7月28日		
敷地面積	844 m <sup>2</sup>	作成者	吉本有里		
建築面積	296 m <sup>2</sup>	確認日	2025年7月28日		
延床面積	2,897 m <sup>2</sup>	確認者	野田智也		

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.4</b></p> <p>★★★★★ A:★★★★ B:★★★ B+:★★ C:★</p> 	<p>★★★★★</p> <p>30%:★★★★☆ 60%:★★★★☆ 80%:★★★★☆ 100%:★★★ 100%超:★</p> <p><b>標準計算</b></p> <p>■建設 ■修繕・更新・解体 ■運用 ■オンサイト ■オフサイト</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 66%</p> <p>③上記+②以外の 66%</p> <p>④上記+ 66%</p> <p>(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b></p> <p><b>Q のスコア = 3.1</b></p>		
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>Q1のスコア= 3.1</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>Q2のスコア= 3.2</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>Q3のスコア= 3.0</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b></p> <p><b>LR のスコア = 3.5</b></p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>LR1のスコア= 4.3</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>LR2のスコア= 2.8</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>LR3のスコア= 3.2</p>

3 広島市の重点項目		
重点項目の総平均スコア = 3.3		
<p>「地球温暖化対策」の推進</p> <p>スコア = 3.8</p> <p><b>設計の計画上位段に配慮した事項</b></p> <p>断熱性能等級5 // BEI 0.77 // 極力節水型器具の採用をしています。 / 可能な限りCO<sub>2</sub>排出を低減しています。</p>	<p>「ヒートアイランド対策」の推進</p> <p>スコア = 1.3</p> <p><b>設計の計画上位段に配慮した事項</b></p> <p>/ 機械式駐車場を前面道路からセットバックしています。</p>	<p>「長寿命化対策」の推進</p> <p>スコア = 3.0</p> <p><b>設計の計画上位段に配慮した事項</b></p> <p>劣化対策等級3/</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される